愛知

「プラステン作戦」学園祭で展開
大規模募集広報作戦が目標を超えて

愛知地方協力本部は令和5年10月7日から29日までの間、愛知県内の大学や高校などで開催された学園祭において「プラステン作戦」を展開しました。

新型コロナウイルスが5類感染症となってから初めてということで、学園祭への来場者の増加が見込まれることから、募集対象者情報獲得増の好機と捉え、各学園祭での募集対象者からの来場者からのアンケート数を以前より10人以上多く獲得することを目標とする「プラステン作戦」を行いました。この作戦は、本部および広報官が協力して行い、募集広報活動を大いに盛り上げました。

学生の質問に答える副本部長（中央）

広報ブースでは、高機動車や軽装甲機動車などの車両展示および災害派遣時の活動状況のパネル展示のほか、南極の石の重さ当てクイズ、30kgの背のうを実際に背負う体験コーナー、迷彩メイクのお試しなど、創意工夫を凝らして広報活動に臨みました。

また、副本部長、総務課長などは、背中に大きく「防衛省」と書かれた防災服を着用して広報ブースでの呼び込みやチラシ配布のほか、学園祭での学生の動向などを見て回り、募集対象者からの確保に努めました。

来場していた多くの学生や生徒たちは、広報官の声掛けに気軽に応じて、仲間同士で広報ブースに立ち寄り、制服の試着や車両での撮影などを楽しんでいました。中には、東日本大震災における活動ビデオを食い入るように視聴し、その後展示パネルを見て回るなど、災害時における自衛隊の活動に関心を持った小学校低学年の男児もいました。

また、ある高校では教諭が防災講話やロープワーク体験などで1時間もの時間を広報ブース（教室）で過ごされていました。

プラステン作戦では「視察結果報告」として、各学園祭の状況、学生の動向、および広報ブースにおける来場者の状況などを把握した内容報告書を作成し、各校の特性や各募集事務所の活動状況などを比較・分析する材料を得ることができました。プラステン作戦の目標達成状況としては、13校中8校で目標を達成し、目標達成には至らなかったものの前年度から増加した大学は3校であり、合計632人分のアンケートを獲得することができました。

熊本

広報官が改めてビジネスマナーを学ぶ
相手への第一印象をより良いものとするため

第一印象は笑顔で

熊本地方協力本部は令和5年11月10日、公益財団法人熊本県雇用環境整備協会で求職者に向けた教育を担当している講師を招へいし、広報官などを対象とした職能強化教育として、ビジネスマナー教育を行いました。

この教育では「マナーとは何か。なぜマナーが必要なのか」などの基本的な知識から自己紹介や名刺交換、来客対応までのビジネスマナーの初歩的な教育を行いました。

教育の中で、相手の第一印象には「4つの壁」があり「外見」「態度」「話し方」の3つの壁を突破してようやく4つ目の壁「内容」に足をかけることができるとのこと。清潔な身なり、立ち居振る舞い、言葉遣いをおろそかにすると内容にすら入れないことを学びました。

また、相手の姿が見えない電話応対については「クッション言葉」を取り入れることで相手への印象を格段に良いものにできることも学びました。

参加者からは「今までビジネスマナーについて、わかったつもりになっていた。今回の教育で学んだ方法で今後は相手に失礼のないよう努めたい」との感想があがり、改めてビジネスマナー教育で学ぶことが多かった様子でした。

Going! PCO

即自隊員との記念撮影

宮城

企業主などが招集訓練を研修
即応予備自衛官制度への理解を深める

宮城地方協力本部は令和5年11月3日、陸上自衛隊多賀城駐屯地および利府射撃場（宮城県利府町）において、宮城県や山形県の8社14人の企業主などが即応予備自衛官招集訓練の研修を行いました。

この研修は、陸上自衛隊第38普通科連隊が担任する訓練に参加している即応予備自衛官を雇用している企業の皆さまに、普段の職場とは異なる自衛官としての姿を見ていただき、即応予備自衛官制度に対する理解を深めていただくことを目的としています。

研修は、多賀城駐屯地での概要説明から始まり、利府射撃場に移動して小火器射撃検定を見学しました。

その後、多賀城駐屯地に戻り、即自隊員との会食・懇談が行われました。

午後からは、120㎜迫撃砲陣地進入訓練や警備訓練などの見学に続き、82式指揮通信車や軽装甲機動車の装備品見学および軽装甲機動車の体験搭乗などが行われ、最後に防衛館の見学が行われました。

企業主たちは即自隊員が真剣に訓練に取り組む姿勢を目の当たりにし「改めて自衛隊の存在と即自隊員の重要性を認識しました」と即応予備自衛官制度に対する理解を示していました。

栃木

ロータリークラブで本部長講話
自衛官募集の現状や自衛隊の取り組みに理解

栃木地方協力本部宇都宮募集案内所は令和5年11月8日、日光市内ホテルにおいて、国際ロータリークラブ第2550地区今市ロータリークラブが主催する加藤本部長講話「わが国の防衛について」の支援を行いました。

講話する加藤本部長

ロータリークラブは、さまざまな職業やスキルをもつ人および市民のリーダーが「世界を変える行動人」となり、その経験や知識を生かし社会奉仕や人道的活動に取り組むことを使命とするなど、多角的アプローチや倫理を大切に独自の活動を行っております。

今回の講話は、自衛隊募集相談員で自衛隊家族会会員の大橋東四郎氏の紹介を受け、同クラブ例会で行うこととなりました。

例会には約20人が参加し国歌斉唱の後、ロータリークラブの拡大と親睦を内容としたロータリーソングが歌われたのち、同ロータリークラブ会長のあいさつや大橋東四郎氏による自衛官募集の現状説明と募集への協力依頼が行われ、じ後、加藤本部長による講話が行われました。

講話では、昨年度末に制定された安全保障関連3文書（「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」）の概要や自衛隊の取り組みについて説明しました。

聴講された会員の方々は「日頃接することのできない分野の話しであり、有意義な時間を共有することができた」と自衛隊に対する理解を深めていました。

兵庫

母校で自衛隊薬剤官の魅力を発信
小久保2佐が一昨年に続きリクルーター協力

笑顔で説明する小久保2佐

兵庫地方協力本部西宮地域事務所は令和5年11月12日、武庫川女子大学で開催された業界セミナーにおいて、リクルーターの協力を得て陸上自衛隊幹部候補生薬剤科の説明を行いました。

一昨年に続き今年もリクルーターとして協力いただいた小久保有子2等陸佐は同校薬学部の卒業生で、現在は陸上自衛隊関西補給処装備計画部衛生課長として活躍しております。

説明会は1コマ30分を3コマ行うもので、1ブース8席のところ自衛隊ブースだけが常に満席で立ち聞きにもなるほどの人気ぶり。

小久保2佐は薬剤官の活動や入隊後の流れ、女性の活躍およびワークライフバランスなどについて分かりやすく説明し、仕事の充実感を十二分に伝えることができました。

学生からは「訓練は厳しいですか」「転勤はありますか」など入校後の訓練やキャリアパスについて質問するなど受験意欲が高まったようで、その場で次年度の受験を希望すると手を挙げる学生も多く、有意義な説明会となりました。

大阪

未来の挑戦者を育む職場体験の舞台裏
募集基盤拡充のため積極的に募集広報活動を展開

大阪地方協力本部は、令和5年度入隊・入校者目標の達成および将来の募集基盤を拡充すべく、大阪府内の大学、高等学校、中学校および専門学校の職場体験を積極的に受け入れています。

令和4年度は、コロナ禍の影響もあり、23校の受け入れに留まっていましたが、令和5年度は、令和6年1月実施分も含めて前年度の2・3倍にあたる52校にまで拡大しているところです。

大阪地本での記念撮影

職場体験の内容は、災害派遣活動の状況を含めた自衛隊の紹介、救急法、ロープワーク、地図判読などの体験、大阪地本が入る合同庁舎の見学、駐屯地における装備品見学、資料館見学、体験喫食など「見る」「触る」「体験する」ことを主体としてスケジュールを組み立て、参加者だけではなく引率の教職員などにも大変好評をいただいています。

また、職場体験の最後には、修了証を授与して参加した学生・生徒への配念にもなっています。

参加者からは「身近なもので止血ができるなんて知らなかった」「地図の使い方を覚えられてよかった」「自衛隊ってこんなにおもろいんや」など、職場体験を担当した本部広報班や各地区隊広報官にとっても嬉しい声を多く聞くことができました。

今後も、自衛隊に対する理解促進および受験意欲の向上につなげるため、あらゆる機会を通じて積極的に募集広報活動を展開してまいります。

神奈川

広報官が中学生40人に職業講話
自衛隊での訓練や豊富な職種について説明

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所は令和5年11月9日、横浜市立根岸中学校で「自衛官の仕事」と題した講話を行いました。

自衛官の仕事を講話する広報官

根岸中学校では「生徒に将来の夢や希望を見つけてほしい」という思いから、さまざまな職業の方を講師として招く職業講話が行われており、今回の講話には中学1年生40人が参加しました。

講話では、自己完結組織である自衛隊の概要と豊富な職域について説明した後、陸上自衛隊の第1空挺団や水陸機動団での勤務経験がある広報官から「空挺レンジャー課程」や「水陸両用基本訓練課程」での厳しい訓練の経験談ややりがいについて説明がありました。

また、航空自衛隊特別航空輸送隊での勤務経験のある広報官からは、政府専用機のパイロットや航空機整備員などの勤務状況や訓練内容について説明がありました。

職業選択の重要性や学習への取り組み方、人とのつながりや絆の大切さなどについて考えるきっかけになるよう工夫して講話を行ったことで、生徒たちは終始真剣なまなざしで熱心にメモを取りながら、自衛隊の厳しい訓練や幅広い職域に驚きの表情を見せていました。

講話終了後、生徒たちからは「自衛隊のイメージが変わった」「来年は職業体験に行きたい」などのうれしい声が聞かれ、先生からも「生徒たちがあんなに真剣に聞いているとは」と驚きの声が上がりました。

静岡

中高生に一期一会の演奏指導
音楽文化の高揚とキャリア教育の一助

音楽隊隊員とのパート練習

静岡地方協力本部藤枝地域事務所は令和5年11月4日、島田市民総合施設プラザおおるりで開催された「陸上自衛隊東部方面音楽隊による中高生のための吹奏楽クリニック」を支援しました。

このイベントは、中学生・高校生と自衛隊の音楽隊が音楽を通じて交流することで、青少年の音楽文化の高揚とキャリア教育の一助とすることを目的として開催されたもので、市内在住・在学の中高生82人が参加しました。

参加者たちは、事前に指導曲「アフリカン・シンフォニー」の楽譜を受け取り、個人練習を重ねて、このイベントに臨みました。

楽器ごとのパート練習では、第一線で活躍する隊員から楽器を吹く際の口や肺の動きなど体の構造から教わり、参加者たちは基本を大切にした指導内容に真剣に耳を傾けていました。

また、息の吸い方やスピード、抑揚の付け方、指の置き方といった細部にまで気を配ることで、音色により一層感情が加わり、音が遠くまで響くようになることを実感していました。

一方、参加者からも「普段どのように練習をしているのですか」「本番はどのような気持ちで演奏していますか」といった積極的な質問があり、隊員の技術を吸収しようと努力していました。

最後は、翌日に音楽隊の演奏会が開かれる演奏ホールに移動し、ステージや客席を使用して参加者と隊員が合同で演奏し、一期一会の演奏指導を締めくくりました。

岩手

「故郷を守る」という誇り

スカイフェスタでの記念撮影

岩手地方協力本部　予備3等陸曹　高橋　修

私が自衛隊に関心を持つようになったのは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災でした。その際、懸命に災害派遣活動に従事する自衛官の姿を見て、自衛隊の任務が国防だけではないことを初めて知りました。そして私は、震災からの復興に際し「ブルーインパルスの展示飛行を花巻の空で実現させたい」という大きな夢を抱きました。

それはとてもハードルの高い夢でしたが、岩手地方協力本部をはじめ、自衛隊OBの皆さんが誘致実現のため、最後まで支えてくださったおかげで、平成26年のいわて花巻空港スカイフェスタでブルーインパルスが展示飛行を行うことが実現しました。

ブルーインパルスが、多くの人々に夢と感動を与える雄姿を目の当たりにして、私は、自衛官という仕事に憧れを抱くようになりましたが、時は遅く、40歳半ばでは自衛官になれるはずもなく、諦めるしかありませんでした。

ところが、調べていくうちに、予備自衛官制度を活用すれば、私でも自衛官になれて、災害派遣などで幸仕できることを知りました。

私は、51歳で国家資格を取り、ついに技能公募で予備自衛官補となりました。

予備自衛官補の招集訓練に参加して一番感銘を受けたのは、個人差があっても、チーム一丸となって困難を乗り越える姿勢でした。

その後、令和5年2月に予備自衛官として正式に任命され、初めての招集訓練で、改めて、自然災害が頻発する昨今は、消防力だけで市民の生命と財産を守ることは極めて困難だと痛感しました。

国と国民を守るため、家族を守るため、予備自衛官制度を多くの皆さんに知っていただきたいと思います。

私は、予備自衛官の一員となり、国民の1人として、微力でも国のため、故郷岩手のために幸仕できることを誇りに思っています。